
アンバランス

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンバランス

【Nコード】

N7089T

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

前作【フェイクセラピー】の続編になります。ちよいホラーの不思議ワールドです。

(前書き)

納得がいかないんだ!!

「どうもバランスが悪いな」

先日【フェイクセラピー】という怪しい店で肩凝りを治療してから、頭が重たくなったような気がする。

やけに身長が縮んだような気もするし、周りの人達も大きくなつた気がする。

街中に出ても、小顔で身体が異常に大きい人がいたり、どこからどう見ても女の顔をした男がいたり、男の顔をした女がいたりとして、実に不気味な世の中になった。

『それにしても俺、こんなにチビだったっけな？』

頭が異常に大きく、どういふ事か五等身。バランスが悪いなんて問題じゃないのかもしれない。

『あの店が、やっぱり怪しいな』

そう思って【フェイクセラピー】のあった場所に来てみた。

しかし、あの怪しい店は何処にもなかった。

『あれえ！？ おつかしいなあ！？』

周辺を歩き回ってみるが、やはり【フェイクセラピー】なんて店は無かった。

途方に暮れて帰ろうとした時だった。

あの【フェイクセラピー】のあった裏側の路地に、これまた怪しい店を発見した。

【あなたの悩み解消いたします。身長でお悩みの方。性別でお悩みの方。当店に一度、ご相談ください。我社の最新技術によって、あなたの悩みを即解決する事が出来るかもしれませんよ。詳しくは、店内にて説明いたしますので、気になられた方は、2階までお上がりください】

『なんか、この前の店に似てる気が……』

そう思い、怪しい店に入ってみた。

「お帰りなさいませ。御主人様」

真つ赤なローブで全身を覆った男が話し掛けてきた。

『おいおい。黒が赤になっただけじゃないか!? しかもまた、お帰りなさいませって言ってるし』

先日の店と同じだと確信した俺は、赤ローブの男の傍まで早足で歩いて行った。

「おいこら！ 俺の体、肩凝りは治ったけど、何かバランスおかしくなったけどどうなってる!？」

赤ローブの男の前のカウンターを、両手でバンツと叩いて大声で怒鳴る。

しかし、赤ローブの男は、「御主人様。我が店は、治療を行う所ではありません。御主人様方のお悩みを解消する所にございます。

何処か、別のお店と間違えておられるのではございませんか?」と、淡々と答えた。

「確かにこの前は黒いフードだった……。っつって！ 騙されるかよ！ 黒いフードが赤いローブに変わったただけだよ！」

「そう言われましても……。仕方ありませんね。御主人様には、我社の最新技術を無料で体験していただき、そのいかがわしい店との違いを、理解していただくというのは如何でしょうか?」

何やら話がややこしい方向に向かいそうだが、バランスの悪い体が無料で元に戻るならば、と思い赤ローブの提案を受ける事にした。

指示を受けた部屋に入ると、光も射さぬ暗闇だった。入室と同時に、部屋のドアがバタンと音をたてて閉まると、ガチャツと大きな音がして部屋に閉じ込められた。

『クソツ！ ヤラレた！ どうなってる！ 真つ暗で何も見えやしない！ 俺とした事が、前回と同じ手に引っ掛かるとは!』

暗闇の中を、壁伝いにグルグル周りながら出口を探す。

もうどれだけ歩いただろう？ 全くドアの場所が分からない。その時、ヒュツと聞いた事があるような音が聞こえたと思うと、頭や腕・体を鈍器で殴られたような痛みが走り、身体の自由がきかなくなつた。

『もう訳がわからない』

動かない頭・動かない身体を、どうにかして動かそうと躍起になつたが、冷汗が額を横に流れていく感覚だけしか分からなかつた。

動こうとすれば動こうとする程、額を汗が流れていくのみ。右から左に流れる汗は、冷たかつた。

暫くすると、頭や体を誰かに触られているような感覚になつた。

『う！ き、気持ち悪い……』

そして、手の感覚がなくなった瞬間、後頭部に重い痛みを感じた途端、意識を失つた。

気が付いた時、俺は自分の家の前で倒れていた。起き上がるうとしたが、空が見える。

『どつという事だ！？』

空を見上げ起き上がると、とりあえず頭を冷やす為に、家へ入ろうとしたが後退りしてしまう。

疑問が頭を駆け巡り、顔を触つた時だつた。

『……何だ？ この感覚……』

それは、俺の後頭部だつた。

俺の顔は……背中を向いていた。ただ世界の大きさは、俺の知っている高さに戻って……いた。

(後書き)

流石にこれはないな……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7089t/>

アンバランス

2011年10月8日00時50分発行